

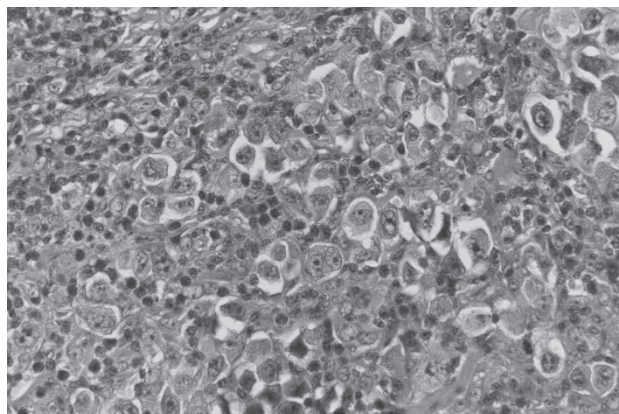
＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部 長	今北 正美
医 長	伊東 良太

＜特色と概要＞

2008年に「病理診断科」が広告可能な標榜科名として認められ、医療法施行令第3条の2に「病理診断科」の名称が付け加えられた。当院では、2014年に病理診断科を標榜したが、実態としては、検査科の一部門として運営されていた。2019年4月より、病理診断科は検査科とは分離され、独立した診療科となった。2020年4月より、医師1名が増員され、医師2名で業務を行っている。

病理診断科の業務は、細胞診断、生検組織診断、手術で摘出された臓器・組織の診断、手術中の迅速診断および病理解剖からなっており、診断を確定するためないしは最終診断として「病理診断」は大きな役割を果たしている。



ホジキン病の画像

＜実績＞

年	(件)				
	2019	2020	2021	2022	2023
組織診	5,156	4,416	4,632	4,729	4,673
術中迅速組織診	205	204	196	175	177
細胞診	4,862	4,844	4,712	4,539	4,550
術中迅速細胞診	81	101	106	77	88
病理解剖	10	9	9	8	15

上記に直近5年の実績を掲載した。組織診はコロナの影響で減少したが、コロナ前にはおよばないものの増加を示している。術中迅速組織診と細胞診は250件/年近く実施されている。細胞診は、当院産婦人科の特殊性から件数は減少傾向にある。今年度の病理解剖は15件を数えた。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

組織診件数は4,000件/年、術中迅速診断も200件/年を超えていることは、当院で高度な医療が実践されていることの反映と考えられる。病理解剖は年々遺族の承諾を得るのが難しくなっているが、関係各位の尽力により10件/年以上を目標としている。今年度は目標をこえる15件を数えた。

より質の高い診断を目指して研鑽するとともに、他科との症例検討会を継続開催する。